

土砂災害に備えて

大雨の時など避難の際に必要なとなりますので、家族全員がわかる場所に貼っておきましょう。

①土砂災害警戒区域や避難所等を確認しておきましょう！

○黄色で囲まれた範囲（**土砂災害警戒**）は「土砂災害が発生した場合、住民の生命又は身体に危害が生じるおそれのある区域」です。

○赤色で囲まれた範囲（**土砂災害特別警戒区**）は、「建築物に危害が生じ、住民に著しい危害が生じるおそれがある区域」です。

土砂災害警戒区域等にお住まいの方は、大雨のときには警戒避難が必要となる可能性がありますので、注意してください。

日頃からの確認



②雨が強くなってきたら、積極的に雨量情報、予報、警報等の情報を入手しましょう！

○まずはテレビやラジオ等で気象情報を確認しましょう。

○雨が強くなってきたら、電話やインターネットでも確認しましょう。

☆インターネットによるサービス

・北海道防災情報ホームページ

[http://www2.bousai-hokkaido.jp/pc/\(3gwm5f45lw2zxo2gf4iems55\)/index.aspx](http://www2.bousai-hokkaido.jp/pc/(3gwm5f45lw2zxo2gf4iems55)/index.aspx)

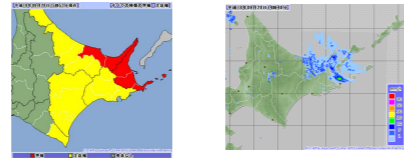
・気象庁ホームページ

<http://www.jma.go.jp/jma/>

☆携帯電話によるサービス

・北海道防災情報ホームページ

<http://www2.bousai-hokkaido.jp/mobile>



雨が強くなってきたら



～雨の強さと災害の発生状況～

1時間雨量	人が受けるイメージ	発生状況
10～20mm未満	ザーザー降る。	長く続くときは注意が必要。
20～30mm未満	どしゃ降り。	側溝や下水、小さな川があふれ、小規模なげ崩れが始まる。
30～50mm未満	バケツをひっくり返したように降る。	山崩れ、げけ崩れが起きやすくなり、危険地帯では避難の準備が必要。都市では下水管から雨水があふれる。
50～80mm未満	滝のように降る。	都市部では地下室や地下街に濁水が流れ込む場合がある。土石流が起こりやすい。多くの災害が発生する。
80mm以上	息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる。	雨による大規模な災害が発生するおそれが高く、嚴重な警戒が必要。

③前兆現象を見つけたら、直ちに市役所や消防本部に連絡しましょう！ また、早めの避難を心がけましょう！

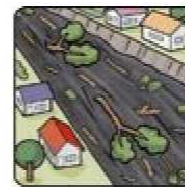
こんな前兆現象に注意！



山鳴りがする



雨が降り続けているのに川の水位が下がる



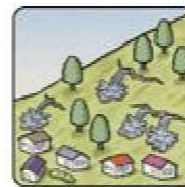
川の流れが濁り流木が混ざりはじめる



小石がパラパラ落ちてくる



地面にひび割れができる



斜面から水がふき出す

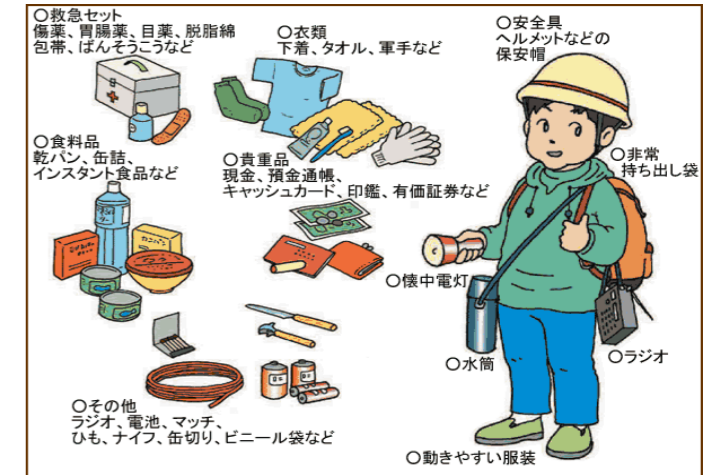
④<避難準備・高齢者等避難開始>が発令されたら、非常持出品の用意などを開始しましょう！ また、避難行動要支援者（高齢者等）など、特に避難行動に時間がかかる方は、避難を開始しましょう！

⑤<避難勧告>や<避難指示（緊急）>が発令されたら、直ちに避難しましょう！

- 避難所への避難が困難な場合には、周囲の建物より比較的高い建物（鉄筋コンクリート等の堅固な建物）の2階以上（斜面と反対側の部屋）に避難するなど、生命を守る最低限の行動をしてください。

⑥避難の際はこんなことに気をつけましょう！

- 避難所へ避難する場合は、他の土砂災害危険箇所や浸水想定区域（浸水するおそれがある区域）を避けた避難経路を選択しましょう。
- 溪流から直角方向に避難し、できるだけ溪流から離れましょう。
- 携行品は限られた物だけ（非常持出品）にしましょう。
- 服装は軽装とし、帽子、雨合羽、防寒用具を携行しましょう。
- 火気の始末をし、火災が発生しないようにしましょう。
- 戸締まりをしましょう。



災害時の家族との連絡方法を決めておきましょう
 { メッセージの録音：171+1+自宅の番号
 (例) NTT災害用伝言ダイヤル「171」の活用
 { メッセージの再生：171+2+自宅の番号

■ 気象情報・避難情報の伝達経路

避難勧告などの伝達は、広報車、携帯電話への配信のほか可能な方法により行います。また、テレビ、ラジオ等の放送機関に放送を依頼します。大雨時には電話回線が混み合う場合がありますので、前兆現象の通報以外には、できるだけ使用されないようにお願いします。

